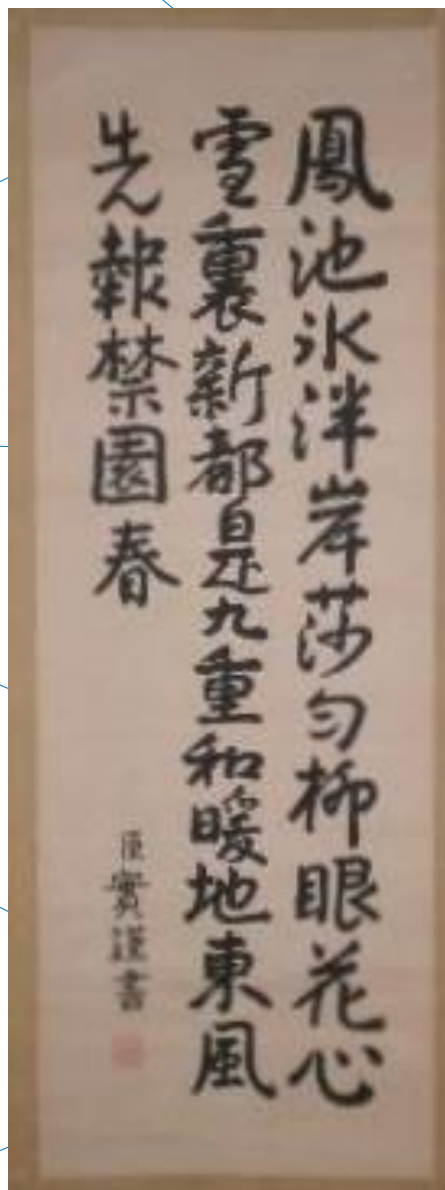


令和 7 年 ミニ企画展

『記念館推しのイッピン』



⑤「昭和天皇献上の書」

實が内大臣に就任した
際に天皇に献上した書
の下書き

【開催期間】 令和7年9月2日(火)～11月30日(日)

奥州市立斎藤實記念館

令和6年7月より「記念館推しのイッピン」と題し、所蔵する衣装や装飾品、日用品など多くの貴重な資料の中から、「推しの品」としてピックアップし、当館ホームページにて毎月紹介しています。

この取り組みは、ホームページを通して「斎藤實記念館にはこういった資料があるのか」という発見や「常設展示品とはまた一味違った資料への興味関心」を持っていただき、実際に記念館へ足を運んで目にしていだきたいという思いを込めてスタートしたものです。

斎藤實は海軍大臣、朝鮮総督、総理大臣、内大臣といった要職を歴任し、その折々や日常で使用した品々は、当時を知る貴重な資料として数多く残っています。また、春子夫人が着用したドレスや着物、小物類なども多数残っています。

本展は、「記念館推しのイッピン」で取り上げた夫妻の衣装や装飾品、日用品など貴重な品々を紹介し、目に触れる機会とするものです。

①「弾丸貫通の鏡」



斎藤實記念館の顔といえる「弾丸貫通の鏡」。昭和11年2月26日未明、陸軍の青年将校らが政府の要人らを襲撃・占拠するというクーデター、いわゆる「二・二六事件」が起こり、東京四谷の斎藤實私邸も午前5時ごろ150人を超える兵士に取り囲まれた。襲撃を受けた斎藤夫妻の寝室は2階の奥にあり、寝室の隅には鏡台が置かれていた。わずか5分余りの凶行だったが、實は47発もの銃弾を浴び、命を奪われた。その際、流れ弾が貫通した鏡。

記念すべき第1回目の推しのイッピン（令和6年7月号）として紹介。

②「秋山真之からの手紙」



秋山真之からの手紙。秋山真之は慶応4（1868）年伊予国松山（現在の愛媛県松山市）生まれ。当館には海軍次官時代の實に宛てた書簡が2通残されており、そのうち1通を常設展示している。

實は、真之が観戦武官として視察し、報告書を作成した「サン・チャゴ・デ・キューバ海戦」に関する記事が載った米国新聞を真之に送る。明治34（1901）年8月、そのお礼を述べたのがこの書簡である。

NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」再放送に合わせ、第4回目令和6年10月号で紹介。

時節や世の中の出来事などをヒントにテーマを決め、イッピンを紹介。時事に沿った内容になるよう、工夫を凝らしている。

④「ローマ法王（教皇）から授与された勲章」



「グラン・クロア・サン・シルベストル」勲章（大十字章）

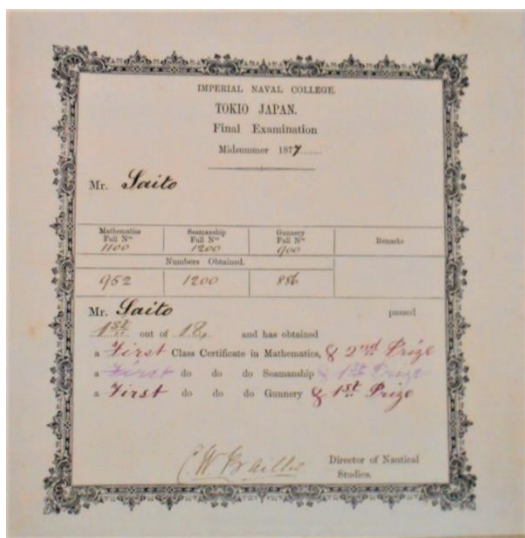


「グラン・クロア・ピーヌーフ」勲章（大十字章）

令和7年5月号で紹介した「ローマ法王（教皇）から授与された勲章」。新しいローマ教皇を決める選挙「コンクラーベ」が実施された際に合わせたイッピン。

原敬首相の依頼を受け、實は大正8（1919）年朝鮮総督に就任し、外国人宣教師と積極的に対話・交流。米国や諸外国における日本の朝鮮統治に対する誤解を解き、また、対話だけではなくその活動を支援した。

これらの功績から、大正11（1922）年「グラン・クロア・サン・シルベストル」勲章（大十字章）を、そして10年後の昭和7（1932）年には「グラン・クロア・ピーヌーフ」勲章（大十字章）を授与された。



⑥「海軍兵学校卒業証書」

實が通っていた海軍兵学校の卒業証書。明治6（1873）年9月、16歳の實は海軍兵学校（のちに「海軍兵学校と改称」）の入学試験を受験し、同年10月27日に海軍兵学校予科生として入学。予科1年本科3年の課程を修了し、明治10（1877）年本科を卒業。

英文で記された本科の成績表を見ると、Seamanship（運用・航海術）1200点/1200点、Mathematics（数学）952点/1100点、Gunnery（砲術）886点/900点という好成绩を収めている。

兵学校の本科を18人中1番で卒業し、2年後の卒業大試験では3番という成績で卒業している。令和7年3月号として卒業シーズンに紹介。

⑦「春子夫人が着用した袷袴」



平安文化の伝統が残る「袷袴」。女性の和装大礼服のこと。公家女子の伝統的な正装である唐衣装（十二単）の略装で、皇族女子、および皇族以外の、いわゆる臣下の女子が着用した装束。

歴史公園えさし藤原の郷でロケが行われたNHK 大河ドラマ「光る君へ」最終回に合わせ、令和6年11月号にて紹介。

⑧「クリスマスカード」

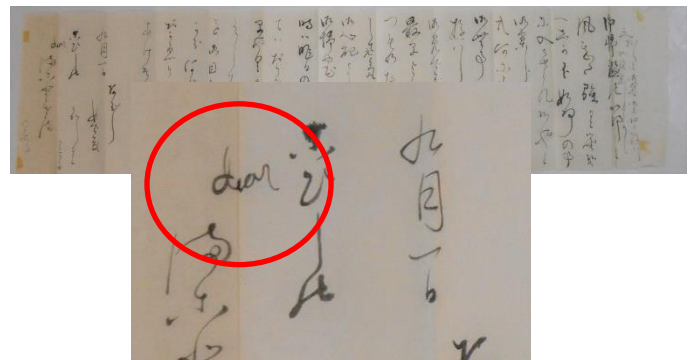
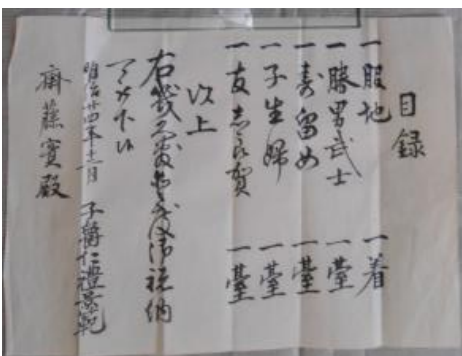


令和6年12月号の推しのイッピン。クリスマスシーズンに合わせ紹介。

当館には、夫妻に宛てられた81点のクリスマスカードが残されている。そのほとんどが外国人から送られたクリスマスと新年の挨拶を兼ねたものとなっている。

年代がわかる最も古いものは、春子を通った東洋英和女学校の西洋教師一同から大正9（1920）年に春子宛てに送られたカードで、そのほかのカードは實が子爵となった大正14（1925）年以降に送られたもの。イエス・キリストや松の実、ポインセチアなど、クリスマスを象徴するイラストが描かれたカラフルなデザインとなっている。

⑨・⑩「目録・ラブレター」



6月、ジュンブライドにあわせ紹介した「斎藤家・仁礼家結納目録」（令和7年6月号）。明治24（1891）年12月2人は結納し、實の上司である山本権兵衛の媒酌により翌年2月5日めでたく結婚。實35歳、春子20歳。仁礼家から實に贈った結納目録。

七夕の時期に紹介した「ラブレター」（令和7年7月号）。實の航海中や朝鮮総督時代離れて過ごす折など、互いに毎日のように便りを送りあっていた。そして手紙の最後には「恋しきまこと様」や「dear まこと」など、当時には珍しく愛を表現する言葉が添えられていた。

令和6年開催したミニ企画展や企画展に合わせ、「記念館推しのイッピン」内でも展示品を紹介。ミニ企画展「斎藤夫妻の日用品」（期間：9月1日（日）～12月1日（日））と、企画展「斎藤夫妻の旅物語」（期間：2月26日（水）～6月1日（日））での展示品について、PRを兼ねて紹介した。



⑪「秤（はかり）」

ミニ企画展「斎藤夫妻の日用品」に合わせ、令和6年8月号にて紹介。

非常に筆まめな性格だった實は、手紙の返事なども自身が書き、宛名も自書していた。郵送する際、重さを確認するために使用した。量りたい物を皿に載せ、反対側に吊るした分銅を左右に動かし、分銅の目盛りの位置で重さを確認する。ほかにも2つ残っている。

⑫「携帯用食器類」

同じく令和6年9月号にて紹介。軍艦で使用したもの。革のケースの中にカップ・スプーン・フォーク・ナイフ・ワインオープナー・調味料入れがセットされている。



⑫「携帯用コップ」

こちらも軍艦で使用。折り畳み式。軍艦に持ち込む荷物を最小限にする必要から、折り畳み式の品が多数使用されている。コンパクトなカップなどの食器類は、現代のアウトドア用品のような趣を感じさせ、とても丈夫な作りとなっている。



③「トランク」

企画展「斎藤夫妻の旅物語」に合わせ、令和7年2月号にて紹介。主席全権として、スイス・ジュネーブ海軍軍縮会議へ出席する際に使用したもの。



⑬「日高囃子と春子刀自」

令和7年4月号にて紹介。毎年4月の最終土曜に開催される「日高火防祭」に合わせ紹介。紹介した写真は、昭和45（1970）年4月22日、現在の旧宅門前にて撮影されたもの。中央に春子刀自を囲み、吉小路組の皆さんと。

<展示資料一覧>

No.	資料名	備考
①	弾丸貫通の鏡	令和6年7月号 2階展示室南側常設
②	秋山真之からの手紙	令和6年10月号 1階展示室北側常設
③	トランク	令和7年2月号 1階展示室正面常設
④	ローマ法王（教皇）から授与された勲章（2点）	令和7年5月号 1点は1階北側展示室
⑤	昭和天皇献上の書	令和7年1月号
⑥	海軍兵学校卒業証書	令和7年3月号
⑦	春子夫人が着用した袴（写真）、櫛扇（1点）	令和6年11月号
⑧	クリスマスカード（8点）	令和6年12月号
⑨	斎藤家・仁礼家結納目録（1点）	令和7年6月号
⑩	ラブレター（1点）	令和7年7月号
⑪	秤（はかり）（1点）	令和6年8月号
⑫	携帯用食器類・携帯用コップ	令和6年9月号
⑬	日高囃子と春子刀自（写真）	令和7年4月号